

普通期水稻（元気つくし・ヒノヒカリ）管理情報 NO.1

1. 生育概況

6月中下旬の気象は、平年と比較して平均気温はやや高く、降水量、日照時間ともに並みとなりました。

7月4日の生育調査の結果、6月上旬植えのほ場では茎数が平年並みに確保され、6月下旬植えのほ場では活着し、順調に生育していました。また、5月植え（夢つくし）でイネカメムシが多く見受けられるほ場がありますので、今後の発生に注意してください。

2. 水管理

(1) 間断かん水

田植え後は、間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）または、一時落水し適度にガス抜きを行い、根を健康に保ちましょう。特に麦わらをすき込んだほ場では、田植え後20日頃を目安に軽く田干しを実施しましょう。

(2) 中干し

中干しは、1株当たりの茎数が18~20本程度確保できたら開始してください（田植え後30日頃からが目安）。

① 中干しの時期

田植え	中干し開始の目安	中干し期間
6月9日	7月9日頃	土壌表面の乾き具合を見ながら 7~10日程度 ※下記③の基準を目安とする
6月16日	7月16日頃	
6月23日	7月23日頃	



（目標茎数のほ場の様子）



（適切な中干し程度）

② 効果

- 土壌のガス抜きと酸素の供給によって根の活力を維持
- 窒素吸収を抑え、無効分げつを抑制
- 倒伏の軽減、地固めによるコンバイン作業性の向上

③ ポイント

- 土壌が黒乾し田面に浅い亀裂が入り、足跡が軽く残る程度を基準とする（土壌が白色になるまで干さないように注意）
- 生育過剰のほ場や排水不良のほ場ではやや強めに、生育が不足気味や水持ちの悪い田では軽めに実施
- 中干し後は一度に深水にせず、走り水程度から始めて徐々に湛水

3. 病虫害補正防除

いもち病が発生した場合は、発生初期に補正防除を行きましょう。また、補植用苗は病虫害の発生原因になるため早めに処分しましょう。

病名	薬剤	薬量（10a 当り）	使用時期
いもち病	ダブルカットフロアブル	水 140ℓ に 140mℓ （1,000 倍）	穂揃期まで
	コラトップジャンボP	10~13 パック （500~650g）	葉いもち：初発 20 日前~初発時

4. 雑草補正防除

雑草が多い場合は、下記の除草剤を散布してください。雑草の生育が進むと除草剤の効果が落ちるので、登録の範囲内で早めに散布するようにしましょう。

対象雑草	除草剤名	薬量（10a 当り）	使用時期	使用上の注意
イネ科 広葉 加ツリガサ科	クリンチャーバス ME 液剤	水 100ℓ に 1,000mℓ	移植後 15 日~ノビエ 5 葉期まで 但し、収穫 50 日前まで	落水状態で散布する。 高温時散布は避ける。 展着剤は加用しない。
	ワイドショット 1 キロ粒剤	1kg	移植後 15 日~ノビエ 4 葉期まで 但し、収穫 45 日前まで	湛水状態で散布する。

※イネ科雑草のみ場合は、「クリンチャーEW」もしくは、「トドメMF 乳剤」を使用してください。